

スタート・ゴール
奥田公民館



見どころ

① 奥田城跡(おくだじょうあと)

奥田字谷(旧字城山)地内にある海拔37.9メートルの山にある。現在は松林または、耕地になっていて、城跡として何も残っていないが、壕・石畳みの跡を思わせるものがある。この城は、尾張誌には水野日向守の居城と伝えている。水野和泉守忠重(信元の末弟)が緒川城に住み、その子の六左工門勝成が当城を築いて住んだ。六左工門はのちに日向守に任ぜられた。

② ハウスみかん「みはまっこ」…

昭和52年よりハウスみかん栽培は始まり、産地として位置づけられている。品質、内容に優れた美浜のハウスみかんは、美浜みかんブランド「みはまっこ」
として全国的に有名である。



③ 恋の水神社



③ 恋の水神社の由来(こいのみずじんじやのゆらい)

神代の昔、大己貴命の神々が国造りをされるとき、少彦名命が急に病に倒れ苦しめられた。大己貴命は御心を痛められ、天津の神にお祈りをされた。すると、天から女神が龍に乗って降りてこられて「吾は美都波能女の神なり」と言われ少彦名命の御身体を三度まで、その地の清水を与えられると病がたちまちに全快してしまった。以来、美都波能女の神を祭神としてお祀りしたのがこの神社である。また、この神社の清水を飲むと重い病気もたちまち治ると言われている。

④ 桜姫の伝説(さくらひめのでんせつ)

桜姫は父の家臣の青町という侍を恋し、人目を忍んでは愛し合っていたが、許されぬ恋故に勘当され、二人は山城の国・愛宕群北山の里に隠れ住んだ。ところがまもなく、病にかかり、たいそう苦しんだが、知多半島に「恋の水」と言う霊験あらたかな神髄があることを知り、桜姫は旅に出る決心をした。そして、苦労してようやく「恋の水」の近くまでやってきて、里人にその所在を聞いたところ、「恋の水に行くにはまだまだ。今までやってこられたくらいの道のりがありますよ。」と答えたという。それを聞いた桜姫は、一度に力が抜けてしまい、そのままその場に倒れ息絶えてしまった。そこに「桜姫塚」と刻まれた小さな墓があったとされる。

⑤ 観音寺(かんのんじ)

南奥田にあり、曹洞宗で報恩寺の末寺である。この寺は、報恩寺住職の隠居所として建造された物であるが、記録はない。永正十二年(1515年)二月に雲閑珠崇和尚によって創立された。本尊に観世音菩薩がまつられている。現在は、「らんの寺」としても知られ、観音寺の本堂のすぐ南の敷地内に野生蘭が十数種、四千株余り植えられている。三月に春蘭展、五月にエビネ展、十一月に寒蘭展が催されている。中でも五月のエビネ展がよく賑わっている。